



ベジシャス第6号 フォトクリップ

@JA うつのみや

2011年5月23日

JA うつのみや 半促トマト部会長 川上守さん
栃木県宇都宮市



半促トマト部会長の川上さん（62歳）は
トマト栽培歴43年のベテランです。
「半促成栽培」は県内でもこの地区だけで行われている
燃油使用の少ない省エネタイプの作型です。

川上さんのハウスの面積は40a（約1,000坪）。
ここで7200本もの苗が収穫を待っています。

=====

震災時はハウス内で作業中だった川上さん。
直立していることもままならない状況のなか
家族は玄関で立ちすくんでいたそうです。

幸いトマトを栽培しているハウスは無事でしたが
自宅は解体せざるを得ない状況となりました。
それでも、休むことなくトマト栽培を続けていました。



崩壊した東部選果場の様子。
スタッフの努力の甲斐あり
3日間の休業で済みましたが、
近隣には復旧に1か月以上かかった
選果場もありました。



3月11日に発生した東日本大震災で倒れた重油タンク。
ハウスの加温用に備蓄してあった
2000リットルもの重油が流れ出しました。
2か月以上経過した現在も地面には重油が残っており
辺りには重油の臭いが立ち込めていました。



ハウス内には灌水用のチューブが張り巡らされています。水やりを控えて味を濃くする栽培方法が最近の主流です。灌水用の栓（写真：左）



奥に見える赤い機械が暖房器具。（写真：右）



↓収穫適期のトマトの色はこのくらい。
 緑が濃いと思いませんか？

常温で選果場から市場・販売店へ運ばれる約2日のあいだに真っ赤に色づきます。

店頭での色を揃えるために出荷前に生産者が集まり、収穫適期の色を確認する「目揃え会」を行います。



【収穫用コンテナの秘密】

水色のコンテナと青のコンテナが交互に重なっているように見えますが・・・
 （写真左：保管している状態）



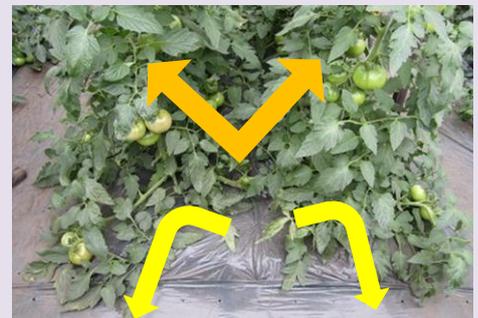
収穫後は上下が同じ色になるように重ねていきます。



収穫後はコンテナの上下を同じ色で揃えて重ねれば、十分な空間が確保されるように工夫されておりトマトが潰れる心配がありません。

忙しい作業のなかでも間違いが起こらないように作業効率アップの為に設計されたアイデア商品です。

【仕立て方に隠された秘密】



通常は1株から2本の枝をとりませんが（オレンジの線）

川上さんはさらにもう2本とります。（黄色い線）

上の6段とあわせて合計7段の花芽をとることが可能です。

最頂部のトマトは日焼けしてしまうことが多いことから川上さんが編み出した工夫です。

バックナンバーも協議会サイトに掲載しています。
 ぜひ、ご覧ください！

http://www.alic.go.jp/y-suishin/yajukyu01_000076.html